

開かれた
アトリエ
公募展

五人五色展

かめおか霧の芸術祭

日時 : 10月6日(金) - 10月26日(木)
9時 - 17時(最終日は15時まで)

場所 : 亀岡市役所地下1階
「開かれたアトリエ」
会期中無休・入場無料

出展者 : 亜月 : Azuki
児嶋 俊見
澤田 大晟
つの ともこ
難波 忍晴



亜月 : Azuki 「カイゴノアイマ《土と糸》」 陶芸と編み物

陶芸を始めるきっかけは母の在宅介護でした。自分自身を解放する時間はなかなか持てない中、2017年から月に1〜2回陶芸教室に通い始め、粘土のむずかしさに一喜一憂しながら、時間を忘れ没頭しました。コロナで陶芸は一時中断し、2021年に母は天寿を全うし天国へ。その後、私自身が体調を崩し陶芸熱も冷めかけた頃、「野焼きをしに山へ行こう」と友人が誘ってくれました。久しぶりに土に触れる愉しさと、癒されるのを感じ、2022年秋から再び陶芸教室へ通っています。編み物は、友人から糸を貰ったことがきっかけです。本を参考に、モチーフ編みをはじめ、母の病院の待ち時間に、小さな楽しみを発見しました。現在、難病の兄の病院送迎、待ち時間にモチーフ編み継続中です。

児嶋 俊見 「山の風・里の風」 木版画

木版画制作を始めて10年となります。その間、主として京都市内で、個展を4回、グループ展を8回、ホスピス病棟での展示を2回行いました。この10年間の制作テーマは、「日常の中の非日常との出会いの喜び」です。慣れ親しんだ日常を注意深く観察すると、それまで気づきもしなかった新たな非日常の場面に出くわすことがあります。今回の展示テーマは、「山の風・里の風」です。収穫を終えた田畑から立ち上る野焼きの煙。秋の亀岡盆地では、牛松山を越えて立ち上る山の風と相まって、刈り取りを終えた田畑の上を静かに風が吹きます。その里のあちこちでは、秋の祭りが華々しく展開します。



澤田 大晟 「天国の門」「傀儡」 立体作品

ふとした時、視界に入ってきたなにかにゾットする感覚。私はこの感覚が好きで、とても大事なものだと思っています。ふとしたときにゾット感じられるような作品作りをこれからもやっていきたいです。ダンボールや新聞紙を素材として使うことで、作品の重量や経費を大幅に減らすことができ、質感も好きなので愛用しています。趣味は散歩、木登り、山登り。最近は漫画を描いています。

つの ともこ 「透明水彩画の世界」 水彩画

自然豊かな亀岡に住んで42年になります。透明水彩画とは、私たちが子どもの頃描いていた水彩画とは絵の具が違います。子どもの頃使っていた絵の具は、不透明水彩絵の具(ガッシュ)です。前に塗った色に上から色を塗ると、前の色を消す事ができ、一番明るい所には白色を使います。透明水彩絵の具は上から被せて塗ると、下に塗った色が透けて見えます。白色は使わず、紙の色で白を残します。描く順番は一番明るい紙の白を残して、薄い色から塗っていきます。使う水の量や、絵の具の濃さで滲みやぼかしを楽しむ事が出来ます。水に蕩ける透明感を作品で感じていただけたら嬉しいです。



難波 忍晴 「みどりのふうけい」 日本画

ひっそりと絵を描いています。これまで自分の作品は人に見せたり批評を受ける機会はないだろうと思ってきたし、それで構わないとも考えてきました。たとえ売り絵のように見栄えのよいものにならなくても、自分なりの表現で描くことを大切に制作しています。心のままに描くこと、いちばん身近な家族が褒めてくれること、そういうことが私にとって絵を描くきっかけになっています。そんな作品の中から小品をいくつか展示させて頂くことになりました。亀岡にゆかりのある皆さんと一緒に作品展が出来るこの機会を嬉しく思い、関係者の皆様に感謝致します。

お問い合わせ
かめおか霧の芸術祭実行委員会
(亀岡市役所 文化国際課内)
京都府亀岡市安町野々神8番地
TEL 0771-55-9655(直通)
kirikameoka@gmail.com



ホームページ



facebook



instagram